

(1月の野菜の見通し)

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年入荷 量(t)	前年占有 率(%)	
だいこん		12,908	98	12,277	67	101	70	-	-	千葉、神奈川産中心の入荷で全体の約9割を占める。神奈川産は順調で2L中心と平年並。1月も12月と同様に切れ目なく出荷される見通し。千葉産も同様に順調。全体の入荷量は12月までの価格不振から年明けも量的に伸び悩み、前年より少ない見込み。価格は平年及び前年並の見込み。
にんじん		7,000	105	7,009	114	70	109	-	-	千葉産中心の入荷で全体の約8割を占める。千葉産は通常どおり5日から始まるが、初めは少なめで通常ペースに戻るの15日頃からの見込み。全体の入荷量は豊作により出回りは潤沢の予想。価格は前年を下回る見込み。
はくさい		12,889	98	12,769	54	83	47	-	-	茨城産中心の入荷で全体の8割を占める。茨城産は1月も引き続き12月と同様のペースで出荷される見込み。階級は4玉が中心で平年並。出荷も平準ペース。全体の入荷量は前年よりやや少ないが、価格は前年を下回る見込み。
ほうれんそう		1,905	100	1,851	384	96	423	-	-	埼玉、茨城、群馬を中心とする関東産が市況をリードする。埼玉産の生育は順調で、天候に大きな乱れがなければ平年並の入荷見込み。全体の入荷量は前年並、価格は前年を下回る見込み。
キャベツ類		13,314	100	12,480	111	63	100	-	-	愛知、千葉産中心の入荷で全体の約8割を占める。愛知産は年末から年始にかけては前年を上回る出荷の見込み。大玉傾向であるため、1月については前年の110～120%の出荷量と予想。全体の入荷量は前年並で、価格は前年を下回る見込み。
ねぎ		5,628	98	5,251	203	108	226	34	0.6	千葉、埼玉を中心とする関東産が市況をリードする。千葉産は現在の生育はやや遅れているが、年末には平年並に回復すると見込まれる。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を上回る見込み。
レタス類		7,250	101	7,394	274	84	240	-	-	静岡、香川産中心の入荷で約5割を占める。静岡産はようやく平年並のペースを取り戻し、これから年末まで予定どおり潤沢ペースの予想。年明けも同様に2L、L中心の出荷となる見込み。全体の入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を下回る見込み。

(1月の野菜の見通し)

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年入荷 量(t)	前年占有 率(%)	
きゅうり		5,455	98	4,916	365	104	426	-	-	千葉を中心とする関東産、高知などの暖地産が市況をリードする。千葉産は12月の寒波の影響が心配だが、晴れが続けば1月は出荷は伸びてくる見込み。高知産は生育順調。1月についても極端な増減はなく平準ペースの出荷予想。全体の入荷量は前年よりやや少なく、価格は前年を上回る見込み。
なす		1,493	98	1,622	419	96	388	-	-	高知、福岡産中心の入荷で全体の約8割を占める。高知産は年末年始も入荷は順調。1月下旬から2月は前年を上回る予想。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格も前年を下回る見込み。
トマト		4,579	98	4,967	388	95	333	-	-	愛知、熊本の暖産が市況をリードする。愛知産は年末から1月は日量5,000ケースとほぼ平年並を予想。着果も問題ない。サイズはL中心で、平準ペースの出荷を予想。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は高かった前年を下回る見込み。
ピーマン		1,291	100	1,320	624	96	597	-	-	宮崎、高知、茨城産中心で全体の約9割を占める。宮崎産は12月までの不安定な気象により心配できるが、出荷量は前年並の予想。全体の入荷量は前年並、価格は前年をやや下回る見込み。
ばれいしょ		8,207	95	7,529	106	137	110	-	-	北海道産中心の入荷で市況をリードする。北海道産貯蔵ものは少なく、小玉比率も高いため、年明けも品薄状態は続く見込み。小玉は芽が出やすいため、出荷ペースはやや早まると見られる。価格はシーズン後半に向かって強めの展開が予想される。全体の入荷量は前年を下回り、価格は前年を上回る見込み。
たまねぎ		9,596	92	8,636	78	146	92	-	-	北海道中心の入荷で全体の約9割を占める。北海道産は不作で少なく、大玉果も少なめ。たまねぎ総体の品薄感は強い。全体の入荷量は前年を下回り、価格は前年を上回る見込み。